

がんばろう縄文遺跡群—世界遺産登録への取組



世界遺産として残していくべき人類共通の宝なんだね。

1 世界遺産とは

「世界遺産」とは、地球ができあがる過程や人類の歴史によって生み出され、過去から現在へと引き継がれてきた宝物で、未来に引き継いでいくべき貴重なものとして、ユネスコの世界遺産条約にもとづいて「世界遺産一覧表(リスト)」に登録された物件のことです。国際的協力による保護や保全を図ることを目的としています。

世界遺産には、「文化遺産」(例えば、ピラミッドなど)、「自然遺産」(例えばガラパゴス諸島など)、さらに文化遺産と自然遺産の両方の価値を兼ね備えている「複合遺産」(例えば、マチュピチュなど)の3種類があります。

現在の登録件数は、3種類合計で936件あり、1,000件までもう少しという状況で、新しい登録は、年々厳しくなっています。

2 日本の世界遺産

日本の世界遺産は16件、文化遺産では姫路城、原爆ドームなど12件、自然遺産では屋久島、白神山地、知床、小笠原の4件です。また、ユネスコ世界遺産センターの「暫定一覧表」(世界遺産登録候補)というリストもありますが、これには、彦根城、富士山など12件が記載されています。

3 「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」の世界遺産登録の実現をめざして

縄文文化は、温暖湿潤な気候のもとに、約1万年もの間、自然を大切にし(「自然と人間の共生」)、主に狩猟・漁労・採集をしながら定住生活をして繁栄した新石器時代の文化です。

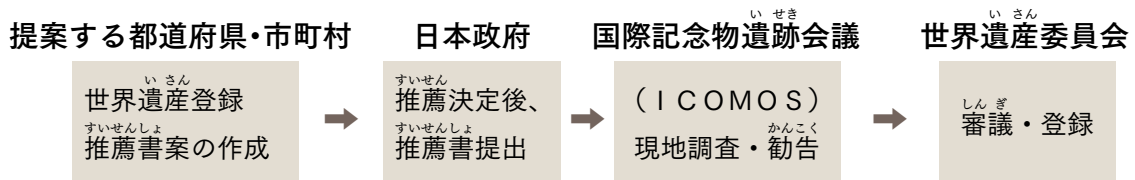
縄文時代には、東日本に広範囲に落葉広葉樹が生い茂るようになりました。そのため安定して食料を得ることができるようになり、また資源の利用技術も発展して、定住生活域が拡大し、集落も大きくなっていきました。

また、土偶や石棒など、マツリや儀式に使う道具も発達しました。

北海道・北東北の縄文遺跡群は、海岸、河川流域、丘陵地帯などの多様な地形にある集落跡・貝塚・環状列石などからなり、さまざまな自然環境に適応しながら定住生活をした様子を知ることができるもので、独自の文化伝統を示すものとして、「顕著な普遍的価値」をもつ可能性が高いと言えます。

そのため、北海道、青森県、秋田県、岩手県の4道県と遺跡のある12の市や町は共同で、15か所の遺跡(北海道4か所、青森県8か所、秋田県2か所、岩手県1か所)で構成される「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」の世界遺産登録をめざした取組を進めており、現在、暫定一覧表に記載されています。

今後、世界遺産登録までは次のような流れが考えられます。多くの人々の理解と協力で、縄文遺跡群の世界遺産登録を実現していきましょう。



47-1 青森県三内丸山遺跡



47-2 秋田県大湯環状列石



構成遺産15遺跡



47-3 青森県小牧野遺跡



47-4 岩手県御所野遺跡